

# 釧路市の酪農が存亡の危機に立たされている



輸入飼料の価格高騰、子牛の  
 個体販売価格の暴落、そして牛  
 乳の減産押し付けと、酪農家は  
 「三重苦」に置かれています。  
 いまの釧路市の酪農の状況を、  
 担当課に聞きしました。

## 2年前と比べ、 飼料代は1・5倍

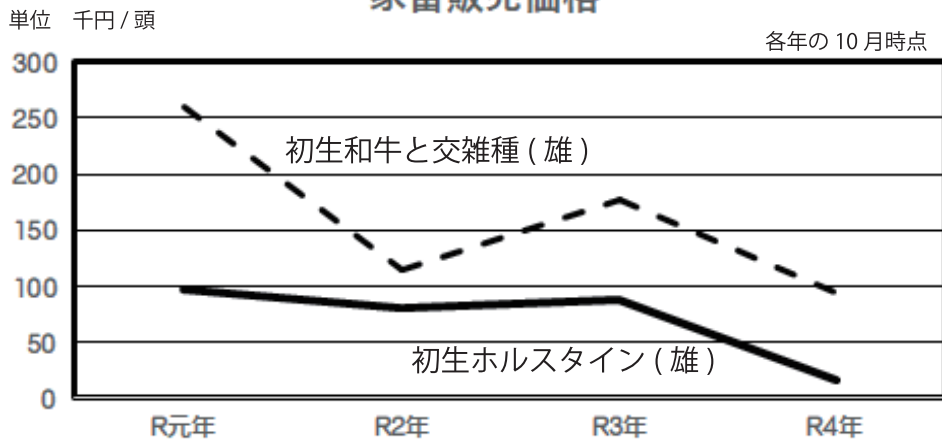
今の酪農危機の最大の原因  
 は、飼料代、肥料代が2年前の  
 1・5倍に跳ね上がったことだ  
 す。2年前、tあたり7万円だっ  
 た飼料価格はいまは10万円を  
 超えました。



## 乳価は4年度は 上がらずじまい

これだけ経費が増えているの  
 ですから、収入も乳価も、それ  
 に合わせて増えなければ採算は  
 合いません。釧路市の酪農家は  
 ほとんど、バターやチーズの原  
 料乳を生産しています。原料  
 乳は、生で飲む飲用乳に比べ、  
 価格は低く抑えられています。  
 今年度の乳価は前年度価格を

家畜販売価格



## 牛の販売価格大暴落

メス牛でなければお乳は出し  
 ませんから、農家はオス牛が生  
 れると、肉用牛として出荷しま  
 す。この子牛の販売は、農家に  
 とって牛乳と並んで、貴重な収  
 入源でした。乳価の低迷に追い  
 打ちをかけるように、個体販売  
 価格が暴落しました。  
 もちろんグラフのように暴落

据え置いたまま、引き上げはな  
 し。さすがに飼料価格の高騰で、  
 年度途中に飲用乳だけはキロ10  
 円引き上げましたが、加工乳は  
 またも据え置き。来年度は加工  
 乳も10円引き上げになります  
 が、すでに「焼け石に水」の状  
 態です。  
 加工乳の収入を補填する制度  
 として「加工乳の補給金」があ  
 ります。「乳価が上がらないな  
 らせて補給金の引き上げを」  
 と多くの農家が切望しました  
 が、結局補給金の引き上げ幅キ  
 ロ0・49円でした。

## 日本共産党・村上かずしげの提案

- ①飼料価格などの高騰分は国費で全額を補てんせよ。
- ②加工乳の補給金を引き上げ、対象数量も拡大せよ。
- ③貸し付けの返還期日が迫っている農家に対して、償還期間の延長を金融機関に求めよ。
- ④カレントアクセスによる輸入を停止せよ。
- ⑤市独自に飼料などの価格高騰対策を5年度も行え。
- ⑥輸入穀物に頼らず、牧草を中心とした「マイペース酪農」を市内でも奨励できるよう情報収集に努めよ。

いま釧路市の酪農戸数は82戸しか  
 ありませんが、近いうちに2軒の酪農  
 の可能性があります。  
 飼料の高騰対策としては、配合  
 飼料価格安定制度がありますが、  
 高値で安定した場合には、その効  
 果は十分ではありません。搾乳牛1  
 頭1万円の国の支援は一度きりの  
 もの、これでは全く不十分です。

## 米国からの輸入最優先

日本の農家が厳しい状態に置  
 かれていながら、米国からの輸  
 入は一切減らさず、逆に日本の  
 農家に減産を強いています。こ  
 の輸入枠はカレント・アクセス  
 13・7万トン/年を停止して、  
 生産調整をやめよの声が起きる  
 のも当然です。

しないものもあります。年間  
 75頭前後を販売する農家にとっ  
 ては命取りです。  
 出荷そのものをあきらめ、殺  
 処分が広がっていることは、痛  
 ましい限りです。